

すべてのステークホルダーが共に学ぶ Ji4pe オンライン学習コースと 医薬品開発教育

—相互の学びで社会参画の実現を目指す—

一般社団法人医療開発基盤研究所 C コース組織委員会
今村 恭子^{a)}、上條 のぞみ^{b)}、田中 友紀^{c)}、
浜崎 泰成^{d)}、雪吉 歌小里^{e)}

1. はじめに

診療上の基本的ツールである医薬品や医療機器の研究開発はますます国際化する一方であり、我が国においてはドラッグ・ラグ（国内外での医薬品承認の時間差）を克服するためにさまざまな医薬品開発促進の施策が実施され、一定の成果を上げてきた。しかし、近年はさらにドラッグ・ロス（海外の承認薬が国内では開発すらされていない状況）という新たな事態に直面している。

社会全体では縮小し続ける日本の人口や進行する高齢化に労働力不足、それに対するさまざまな分野でのデジタル化の推進、コロナ禍での急速な社会行動の変革とオンライン化の普及、人工知能の格段の進化と技術応用の進展による労働力の質的量的変化や大量の情報処理の実用化などが目白押しで、保健医療分野においてもこれらの変化の影響を強く受けつつある。

顧客目線での社会活動が重視され、臨床研究への患者・市民参画（Patient and Public Involvement：以下、PPI）¹⁾ や、臨床研究法²⁾ で認定臨床研究審査委員会に「一般の立場の者」が要件として推進される中で、各方面での人材育成を進めながら当事者間での対話を促進し、相互理解に基づく社会の構築がますます求められるようになってきている。

一般社団法人医療開発基盤研究所（Japanese Institute for Public Engagement：以下、Ji4pe）³⁾ では本誌 No.90・91（2022年6月・8月合併号）⁴⁾ にてご紹介した通り、2020年6月の設立より各種のオンライン学習コースを通して企業・アカデミア・患者・市民のすべてのステークホルダーのための

a) 一般社団法人医療開発基盤研究所 代表理事

b) 武田薬品工業株式会社 ジャパンメディカルオフィス

c) 旭化成株式会社 研究・開発本部 先端技術研究所

d) グラクソ・スミスクライン株式会社 渉外部

e) 岡山大学病院 新医療研究開発センター 臨床研究監理部／治験推進部

学習機会を提供してきた。さらに最近では患者が参加しての職場トレーニングや企業インタビュー、所属会員の活動活性化とオープン化による社会への働きかけにも注力しており、従来の「共に学ぶ」だけでなく「成果志向」を重要なキーワードにしている。

本稿では設立後4年間の歩みを振り返り、特に学習コースの中核となるCコース（医薬品開発の基礎知識学習コース）とDコース〔国際認定SMD（Specialist in Medicines Development：以下、SMD）プログラムコース〕について、その進捗と今後を展望する。

2. Ji4pe学習コースの実績

Ji4peには社会参画（Public Engagement: PE）エキスパートコースとして5つの学習コースがあり（表1）、すべてオンラインでの講義と演習で構成している。このうちCコースは、創薬から市販後までを網羅する製薬医学（Pharmaceutical Medicine）に関わる国際団体のPharmaTrain Federation（以下、PTF）⁵⁾と、国際製薬医学会とInternational Federation of Associations of Pharmaceutical Physicians and Pharmaceutical Medicine（以下、IFAPP）⁶⁾が定義する教育シラバスに準拠した認定コース⁷⁾であり、PTFが提唱するQuality standards（受講者の選定、講師の要件、講義情報の共有、適切な理解度確認テストの実施、受講者のフォローアップ体制など）を満たすことがグローバル監査で確認されている。また、DコースのSMDプログラムもPTFが主導するコンピテンシー評価に基づく医薬品開発専門家としての個人認定コースである。さらに、Ji4peではA、B、Eの主に患者・市民を対象とした学習コースにおいてもPTFのQuality standardsを適用し、質の高い教育を提供するためのさまざまな努力を続けており、2022年にPTFによるCentre of Excellence（CoE）として認定された⁸⁾。

表1. Ji4peが提供するオンライン学習コース

PE エキスパートコース名	期間	概要	開催時期
A. 患者・市民のための人材育成コース（イントロコース）	土曜日午後、4週間	<ul style="list-style-type: none"> 創薬から市販後までのプロセス、法制度 医療コミュニケーション 保健医療と経済 ファンドレイジング 	2025.1.18–2025.2.15
B. 組織リーダー育成コース	土曜日午後、8週間	組織的活動に必要な目標設定・事業計画、チーム育成・リーダーシップ育成その他	2025 年下半年開講予定
C. 開発基礎知識コース	1年間（平日夜間）	創薬から市販後、医療経済学についての96講義	通年受講体制（随時、受講開始可）
D. 開発専門家コース（国際認定SMD）	1年間またはそれ以上	Cコース修了者（または同時受講者）に対する第三者によるコンピテンシー評価	個人への国際認定証書発行
E. 倫理審査委員育成コース	土曜日午後、4週間	臨床研究の倫理審査に必要な基礎教育、模擬審査、スピーカートレーニングその他	2025.4.5–2025.4.26

<https://ji4pe.tokyo/introduction.html>

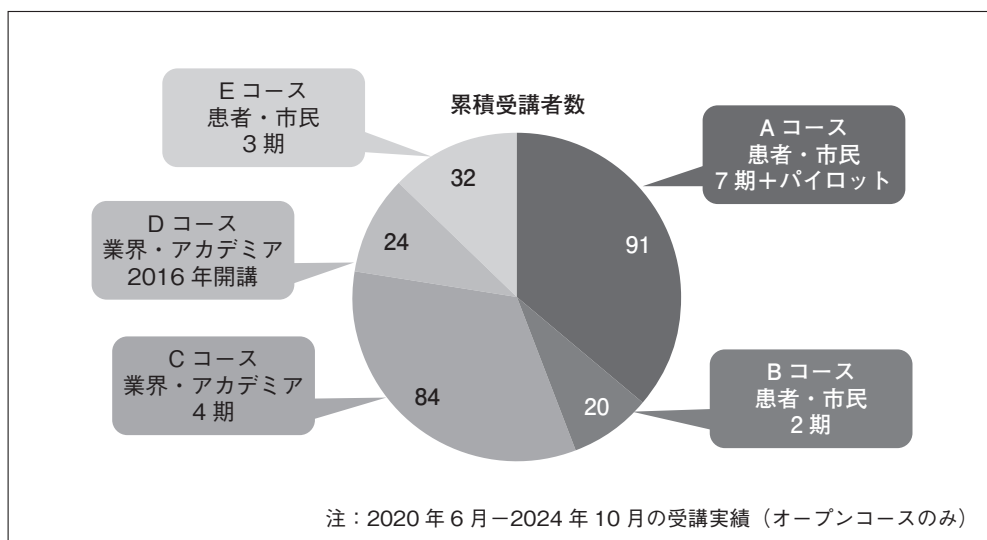


図1. Ji4peの学習コース受講実績

また、これらの学習コースの累積受講者人数は図1の通りである。

学習コースには一般に公募しているオープンコースのほかに、主催団体の要望に応じて臨時に立ち上げたクローズドのコースもあり、Ji4peではそれぞれの時代に必要とされるスキルや正しい理解を得るための実験的なコースを組むことで、将来のコース設計の質的な向上を目指している。

さらに、こうしたコースで学習した受講者は受講実績に従って修了試験を受けて、評価基準を達成した場合は修了証書を発行してJi4peサイトで公表している。これは各学会が認定を発行するに際して採っている方式と同様であり、コース終了後にもリフレッシュ受講と称して講義運営を支援することで学習内容を復習し、知識を維持・更新し続けることを勧めている。こうした教育システムが知られるにつれ、近年の患者・市民参画奨励の中で企業による患者インタビューの参加者募集にもJi4peコースの学習履歴を要件化するところも出てきている。

2-1. 患者・市民も共に学ぶCコース

近年、学習意欲の高い患者市民よりCコースの受講希望があることから、第3期からはA/B/Eコースを修了した者に限って受講を受け入れている。これはJi4peの受講者に限らず、EUでの患者アカデミーとされるEUPATI (European Patients' Academy on Therapeutic Innovation)⁹⁾ではこのような創薬から承認、処方と治療、安全性等についてPTFのシラバスに準拠したコンテンツをe-learningとして学ぶPatient Expert育成プログラムがある。Ji4peのCコースはライブのオンライン講義で質疑応答もできるが、学習のアウトカムとして患者・市民のための達成目標が独自に設定されており、Ji4peでも患者・市民の受講者が学習する際に評価項目として準拠している。企業やアカデミアの受講者と違い、患者・市民にはライフサイエンス分野での経験が乏しく、何より体調管理が難しい中でも熱心に受講し、講義資料の予習復習やオンライン講義での質問を通して学ぼうとする姿勢だけでなく、患者目線からのコメントには企業やアカデミアの立場での受講者がハッとさせられるものもある。

2-2. 受講者をモチベートする取り組み

こうした気づきは講師の側にもあり、特にアカデミアや医療機関からの受講者の声に現場の課題を読み取ることで、通り一遍の対応で終わらずに当事者同士が納得のいく解決策を求めて共に模索することの重要性に気づくことができた、との声も多く寄せられている。すでに本誌でお伝えした通り、Ji4pe の講義は業界やアカデミアの経験豊富な講師が担当しており、立場を超えての講義や質疑応答、Discussion からは双方に学ぶところが大きい。このため第4期では試験的に月末の最終講義日を振り替えて、受講者による発表と Discussion で構成してみたところ、受講者による積極的な調査結果や課題発表に、受講者同士での意見交換、さらに講師も加わっての全員参加型の Discussion が実現した。中には講義時間内には十分カバーしきれなかったコンテンツに対して受講者が独自に深掘りしたスライドが賞賛されるなどの驚きの展開もありで、第5期(2025年4月開講予定)には標準化して全モジュールで積極的に取り組む予定である。

2-3. C コースの構成と多様な受講支援体制

C コースは全体を6つのモジュールで構成し、年間96回の講義(各90分)を提供している(表2)。

表2. C コースの Module・Section 構成

Module	講義内容	Section	教育シラバス
1	・序論 ・創薬と開発計画の基礎	1	創薬
		2	医薬品開発：計画
2	・非臨床試験からヒトでの POC (Proof of Concept) へ ・探索的臨床開発	3	非臨床試験
		4	製剤開発
		5	探索的開発(分子から POC まで)
3	・検証的臨床開発 ・臨床試験	6	検証的開発：戦略
		7	臨床試験
4	・倫理と法的課題 ・臨床試験の方法と生物統計学	8	倫理と法的課題
		9	データ・マネジメントと統計
5	・薬事、安全性、ファーマコビジランス	10	薬事
		11	医薬品の安全性、ファーマコビジランス、薬剤疫学
6	・医療の市場と経済学	12	情報、販売促進、教育
		13	保健医療の経済学、医療経済学、薬剤経済学

働きながらの夜間受講は誰にとっても大変で、コロナ禍以降は在宅体制から出勤へと復活しつつあるものの、やはり自宅でオンライン受講できるコースは企業社員やアカデミア職員である受講者にとっては現実的な選択肢である。その一方でオンライン会議自体が増加しつつあり、緊急な会議の発生や会議時間の延長で平日午後6時半の開講に遅れて、ときにはやむを得ず欠席せざるを得ないこともあるが、Ji4pe ではすべての講義資料や当日講義の録画を終了後に共有フォルダに保存することで、聞き逃した講義やもう一度じっくり聞いてみたい箇所をいつでも確認することができるようにしている。

しかも、Cコースは多くのボランティア精神の講師陣に支えられて、年度受講で96回もの講義を9万円（税別）と極めて廉価で提供しており、専門家の講義が1回千円足らずで受講できるうえに、受講終了後のミニテストとアンケートによるフィードバック基準を満たした受講者には初年度終了後にも1年間の追加受講を無料で受け入れている。

さらに、コースは毎年4月から翌年3月までの年度体制で提供しているが、年度の途中からの受講開始であっても翌年度までの12ヵ月間は連続してすべてのモジュールを受講できるため、4月受講開始に限らずいつでも受講を申し込むことができる。

また、職場での経験が長い社員や職員であっても、配属された部門や与えられた業務以外の知識は十分ではない、またはすでに知っている分野であっても知識をリフレッシュしたいと感じる場合は、モジュール単位または講義単位でも受講することができる。

こうした柔軟な特典の数々は、ひとえに体系的な医薬品開発の基礎知識を身につけて全体を俯瞰することができれば受講者の視野も広がり、時代の要請に応じて柔軟に対応するための基盤作りにつながることを期待してのことである。一人でも多くの方々に国際的な研究開発や市販後管理、Health Technology Assessment等の学習に取り組んでいただき、当事者間のコミュニケーションを進めて共通の成果目標を達成することがJi4peにとってのゴールでもある。

3. グローバル教育シラバスの改訂とその背景

Cコースの教育の質を担保する上で基本となるシラバスは製薬医学に関わる国際団体間での協議で作成され、定期的に改訂することで常に時代の研究開発や市販後管理、社会医学的貢献における技術開発や環境構築に必要なトピックスを取り入れるようにしている。Cコースは後述するSMDプログラムの基礎部分でもあり、ちょうどいま、Version改訂時期にある教育シラバスについて下記の通りSMDの浜崎泰成さん（グラクソ・スミスクライン株式会社）の寄稿で紹介する。

3-1. 医薬品開発の潮流とシラバス改訂

Ji4peが開催するPEエキスパートコースのうち、Cコースでは創薬から市販後までの開発と育薬についての基礎知識を習得するため、IFAPPとPTFが制定するシラバスに準拠したカリキュラムで構成されている。Ji4peでは第4期までは教育シラバスVersion 2.0に準拠したカリキュラム¹⁰⁾で実施し、モジュール単位で日本臨床薬理学会の認定CRC制度の承認を受けている（全6モジュールが承認済み）。

この国際教育シラバスは5年に一度の改訂作業を重ねてきており、2024年4月にはVersion 3.0にアップデートされ¹¹⁾、Cコースでも2025年に開講する第5期からは改訂版のシラバスに準拠した講義を提供予定である。コース全体は表2の通り13のSectionで構成され、各Sectionはさらに細分化された教科内容からなる。実際の講義は全体のSectionを6つのモジュールに編成して提供するが、第5期からはSectionごとの講義数を一部見直し、引き続き業界や当局、アカデミアの経験豊富な専門家による講師陣による講義を提供する。



▲浜崎泰成氏

3-2. シラバスに見る改訂の実際

教育シラバスの定期的な更新は、デジタル技術や人工知能の応用による革新などのようにさまざまな医薬品開発の潮流の変化を反映して、科学の進歩、医薬品開発アプローチの変化、特に近年の医薬品開発における市民参画の重要性への認識などから必要とされており、今回は Version 3.0 へとメジャーなアップデートが予定されている（表 3）。

表 3. C コース教育シラバスの新旧 Version 対比

Module	Section	教育シラバス Version 2.0 (第 1 ~ 4 期)	教育シラバス Version 3.0 (第 5 期~)
1	1	創薬	創薬
	2	医薬品開発：計画	医薬品開発：計画
2	3	非臨床試験	非臨床試験
	4	製剤開発	製剤開発と製造
	5	探索的開発：分子から POC まで	探索的開発：分子から POC まで
3	6	検証的開発・戦略	検証的開発
	7	臨床試験	臨床試験
4	8	倫理と法的課題	倫理と法的課題
	9	データ・マネジメントと統計	データ・マネジメントと統計
5	10	薬事	薬事
	11	医薬品の安全性, ファーマコビジランス, 薬剤疫学	患者の安全性, ファーマコビジランス, 薬剤疫学
6	12	情報, 販売促進, 教育	医薬品情報, 教育, 販売促進：コミュニケーション戦略とチャネル
	13	保健医療の経済学, 医療経済学, 薬剤経済学	医療経済学, アウトカムリサーチ, 薬剤経済学, 患者アクセス

一例として、モジュール 5・6 における主な変更点を紹介する。

- Section 11 のタイトルが「Drug Safety, Pharmacovigilance and Pharmacoepidemiology (v2.0)」から「Patient Safety, Pharmacovigilance and Pharmacoepidemiology (v3.0)」に変更されている。医薬品の安全性から患者の安全性に変更されており、患者中心の姿勢がより強調されている。
- Section 12 のタイトルが「Information, Promotion and Education」から「Medical Information, Education, Promotion: Communication Strategies and Channels」と変更され、「医薬品情報, 販売促進, 教育: コミュニケーション戦略とチャネル」となり、近年のネット社会でのさまざまなチャネルの活用を想定した変更がなされている。
- Section 13 のタイトルが「Economics of Healthcare, Health Economics and Pharmacoeconomics」から「Health Economics, Outcomes Research, Pharmacoeconomics and Patient Access」に変更されており、HTA や患者アクセスという重要なトピックが盛り込まれている。

このほかに、AI やバイオインフォマティクスの役割、デジタルおよびリモートモニタリング、リアルワールドエビデンスの利用、ハイブリッドや分散型治験 (DCT) など最新の技術や方法論に関

するトピックが追加されている。また、Version 3.0 ではそれぞれの Section についてより具体的な内容が定義されている。

Cコース第5期では、このようなメジャーなアップデートに対応したカリキュラムを提供する予定である。

4. C・Dコース修了者からのフィードバック

ここでは、前回2022年の本誌で紹介した座談会メンバーのうち、CコースとDコースを修了した2人のその後についてご紹介する。

上條のぞみさん（武田薬品工業株式会社）

私はJi4peのCコースと、国際認定資格取得を目指したDコースを受講し、SMDのコンピテンシー評価で認定を取得しました。それまで医薬品開発に関するさまざまな業務に携わってききましたが、体系的なシラバスに基づいて順序立てて学ぶ機会はなく、メンターさんの勧めで受講を決意しました。この認定により、自分自身への自信と業務における取り組みの深さが増し、特に他者との協働において、より精度高く円滑に業務を進められるようになりました。また、周囲からの信頼も厚くなり、プロジェクトにおける自分の役割が一層重要になったことを実感しています。



▲上條のぞみ氏

もともと基礎研究に携わっていましたが、結婚・子育てを経て帰国後に再スタートを切り、アカデミアでのCRCとしてキャリアを歩み始めました。アカデミアでは、プロジェクトマネジメント、データマネジメント、モニタリング、事務局業務を経験し、その後CROで医師主導治験や特定臨床研究、臨床研究の立案から総括報告書の作成までを担当しました。現在は製薬会社で依頼者や共同研究者としてエビデンス構築に取り組んでいます。

SMDプログラムの基礎部分であるCコースでは、著名な講師の先生方と双方向でコミュニケーションができる点が魅力の一つですが、業務の都合でリアルタイム受講が難しい際もオンデマンド配信を通してキャッチアップできるため、ユーザーフレンドリーです。繰り返し視聴できる点は自己学習において特に効果的で、理解を深める助けとなりました。

本プログラムで体系的に学んだことで、医薬品開発の全体像を俯瞰できる視点が身につく、業務に取り組む際の視野が広がったと感じています。講義で得た理論やケーススタディを実務に活かすことで、より効率的な意思決定が可能となり、プロジェクトの質の向上や成果にもつながりました。こうした知識と視点の強化は、複雑な課題に対しても柔軟かつ効果的に対応する力を育む上で、大きな支えとなっています。また、医薬品開発における基礎知識を網羅的に習得したことで、製薬会社に移ってから企業内の共通言語や業務プロセスの理解が深まり、部門間のコミュニケーションをより円滑に進めることができます。

田中友紀さん（旭化成株式会社）

私は現在、医薬品の臨床開発業務から離れて、臨床研究のフィールドで研究者支援を行っています。医薬品開発と臨床研究は従う規制が異なるという相違点があるものの、医療や医学に革新をもたらすことを共通の目的とし、その有力な検証となる臨床試験は科学的合理性および倫理的妥当性の確保の上で行われること、という原則は一致しています。今回は、CおよびDコースが、受講後から現在の業務にどう活かしているかを振り返ってみたいと思います。



▲田中友紀氏

〈医療倫理に関する充実の講義が実務に直結〉

Cコースの倫理に関する講義は、割り当てられている時間が多いことと、一つひとつの倫理課題を掘り下げる内容であり、以前、企業での導入教育として一通りの講義を受けた内容を大きく超えるものでした。臨床研究は、医薬品開発よりも研究内容が多様であるがゆえに個々の研究により倫理的課題の内容が異なります。臨床研究に倫理的課題が生じたときの解決方法を考える上で、Cコースで学んだ倫理原則や多面的な考え方を理解していることが基礎となっていると実感しています。

〈知識と実務の連動〉

Ji4peでDコース参加の目的であるSMD認定は、実務遂行能力に対し認定されます。とはいえ、SMD認定のための学習およびスキル習得の証跡とするために、同時にCコース履修が推奨されています。

実際にCおよびDコースを同時に受講したところ、学習およびスキル習得の証跡以外の効果として、Cコースで得た知識をなんとかして実務に結び付けようとする姿勢に自身が変わったことを実感しました。これは癖や傾向のようなもので、コース終了後も、何かしら知識を得たときには実務に結び付ける機会を都度探すようになっています。

〈Ji4pe 講義運営支援〉

前述の [Ji4pe 学習コースの実績] 項や [グローバル教育シラバスの改訂とその背景] で紹介の通り、受講後もリフレッシュ受講やシラバス改訂に携わっています。Ji4peであれば国際教育の変化状況がわかるので教育内容を適宜見直すことが必要であり、周辺の学会等の情報を積極的に収集して、自組織での取り組みに活かしています。

CおよびDコース受講の影響はこのほかにもあり、また今後も新たに気づくこともあると思います。SMD認定取得にはCコースでの受講が前提要件であり、さらに知識を活用した実務遂行力が説明できることが必要で容易ではないものの、得ることの多いコースです。

5. 患者・市民参画と医薬品開発専門家(SMD)

2017（平成29）年に公布され、翌年施行された臨床研究法¹²⁾により、医療や医薬品の開発において従来曖昧にされてきた患者や市民の声を倫理審査や研究開発の運営に積極的に反映することになり、近年さまざまな患者・市民参画への動きがある。しかし、その人材育成はまだ始まったばかりであり、社会的認知を高めるためには相当の努力が求められている。

前回の本誌で紹介した通り、Ji4peのDコースに参加登録後にPTFとIFAPPにより医薬品開発専

門家（SMD）と認定された15人は、その後さまざまな形でJi4peの学習コース活動に貢献しており、AコースやEコースなど患者・市民を対象に提供しているコースでの講師や演習を担当する者もいる。その一人として岡山大学病院の雪吉歌小里さんに、SMDとして患者・市民参画に関わることについて語ってもらった。

雪吉歌小里さん（岡山大学病院）

〈患者・市民がCコースを学ぶ意義〉

Cコースでは幅広く医薬品開発の基礎知識が網羅されており、以前は製薬企業やアカデミアの開発業務担当者等による受講がほとんどでしたが、最近では患者・一般市民の受講もあり、2023年度には23人の受講者のうち8人が患者・市民として受講されました。年間受講後に受験して修了証を得た方も多く、その学習経験がさらなる患者・一般市民の活動の一助となっているようです。

患者・一般市民が医薬品開発の基礎を学ぶことの必要性・重要性は、近年の国内のPPIへの期待、機運の高まりから、当然のことと思います。

PPIは、「患者・一般市民参画」と訳され「医学研究・臨床試験プロセスの一環として、研究者が患者・市民の知見を参考にすること（AMED「PPIガイドブック」より）」と定義されています。いわば医薬品開発に係る産官学患のコラボレーションであり、これを達成するには、産官学患がみな日本国内の現状を理解して、共通言語を持って対話していくことが必要です。今日、患者・一般市民の意見を反映させることの重要性や価値が認められているものの、現時点では製薬企業等の受け皿が十分とはいえません。一方で患者・一般市民の側も、その声を届けようにも（病気の知識はさておき）その経験を個人としてではなく一般化して製薬企業に届けられるだけの臨床試験に関する知識・コミュニケーション力は十分とはいえない状況にあると思います。意見を伝えようと思えば伝えられる状況になりつつあることさえ知らない患者さんもまだ少なくないという状況にあり、医薬品開発に関わる者すべてが患者・一般市民へ期待するだけでなく、それを活かしていただくための教育体制の整備も重要かつ喫緊の課題といえます。Ji4peではこの課題解決につながる教育としてさまざまな学習コースを提供しており、Cコースもその一つです。

〈専門家としてのキャリアアップと患者・市民参画への支援〉

私は1998年から大学病院やSMOで治験事務局に従事してきましたが、自身の業務や知識の広がりを感じられず一念発起してSMD認定取得の勉強を始めたのが2016年でした。認定取得に至る4年間の研修や自己学習、国際認定の取得後にはJi4peのAコース・Eコースのプログラム策定メンバーとして参画することで、治験事務局だけでは身につけることができなかったことを知り、学び、会得することができました。私はCコース修了者ではないものの、教育シラバスにある各項目の学習を修了し、自身が医療資格を持たない状況で臨床試験に関わってきたことから、患者・一般市民の方がCコースを受講することの難しさには通ずるものがあると思いますし、だからこそ患者・一般市民の方がCコースを修了した後に感じるであろう達成感や、「目の前の医療」から「医薬品開発全体」に目を向けたときの目線の違いや広がりが想像できます。



▲雪吉歌小里氏

いま、SMDとしてAコースやEコースに参加される患者・一般市民の方と関わっていると、皆さんがいわば「その疾患の専門家」といえ、その疾患に対する医薬品の開発推進への意欲と臨床試験をより良くしたいという熱意があり、そしてその医薬品のユーザーであることを思うと、彼らの意見を聴かない理由はないと強く感じます。

SMDとしてCコース Organizing Committeeにもメンバーとして参画し、定期的な Meeting を通して、何をどうしたらより学習効果が高く、興味を持って参加してもらえるかの検討・工夫・改善を続けています。患者・一般市民の方にとっても適切なPPIのためのフレンドリーなコースとして、継続して取り組みに参加する方々を増やすことができれば、同時に受講に参加する製薬企業やアカデミアの担当者にとっても患者・一般市民の患者に直接接することのできる良い機会となります。皆さんにとって基礎知識習得の機会を提供するとともに、適切なPPIの推進と産学にとって患者の気持ちを理解する機会につながってほしいと思います。

6. まとめ

本誌ではJi4peの設立以来、医療と医薬品の開発を通してさまざまな活動への着手やその後の展開について報告してきた。しかし、国策であるはずの患者・市民参画（PPI）も一部の関係者以外には広く社会に知られるまでには至っていないのが現状である。たとえば国際的なキーワードである Sustainable Development Goals（SDGs）は大いに知られ、国内外のあらゆる分野での活動に反映されているが、PPIについては知らない患者や患者会も多い。また、関係者自身も何をどこまでやれば良いのか、扱いあぐねている面もあるが、単に開発環境だけでなく社会構造や体制整備にも抜本的改革が求められており、人材育成は分野を問わずその一丁目一番地である。



▲今村恭子氏

今回は特に2025年4月からのCコースの教育シラバス改訂についても紹介し、この機会に最新のプログラムでの受講をお勧めする次第である。コースの詳細情報や参加申込は表4のWebページで受け付けており、質問は随時、事務局までメールでお問い合わせいただきたい（info@ji4pe.tokyo）。

表4. 2025年度の学習コース紹介と参加申し込み

コース	Web ページ	開講日	参加申込書
A コース	https://ji4pe.tokyo/course-a.html	2025/1/18	https://ji4pe.tokyo/subscription/index.html
B コース	https://ji4pe.tokyo/course-b.html	TBD（下半期予定）	https://ji4pe.tokyo/subscription/index.html
C コース	https://ji4pe.tokyo/course-c.html	2025/4（通年開講）	https://ji4pe.tokyo/subscription-c/index.html
D コース	https://ji4pe.tokyo/course-d.html	随時登録可	https://ji4pe.tokyo/certificate/index.html
E コース	https://ji4pe.tokyo/course-e.html	2025/4/5	https://ji4pe.tokyo/subscription/index.html

▶ 各コースの受講者の声：<https://ji4pe.tokyo/watchvideo.html>

▶ 全コースの概要：<https://ji4pe.tokyo/intro-course.html>

■文献

- 1) 研究への患者・市民参画 (PPI) . 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
<https://www.amed.go.jp/ppi/>
- 2) 臨床研究法について . 厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html>
- 3) 一般社団法人医療開発基盤研究所
<https://ji4pe.tokyo/>
- 4) オンライン時代の学問のススメ —創薬から市販後までを網羅する国際教育プログラム準拠の人材育成コース—
今村恭子 Clinical Research Professionals No.90・91, p p .30-42
- 5) PharmaTrain Federation
<https://www.pharmatrain.eu/>
- 6) International Federation of Associations of Pharmaceutical Physicians and Pharmaceutical Medicine
<https://ifapp.org/>
- 7) Diploma/Master Courses
<https://www.pharmatrain.eu/recognised-master-diploma>
- 8) Course Providers
<https://www.pharmatrain.eu/pharmatrain-course-providers>
- 9) EUPATI
<https://eupati.eu/>
- 10) C コース教育シラバス v2.0
<https://ji4pe.tokyo/pdf/syllabusv2.0-ej.pdf>
- 11) PharmaTrain Syllabus
<https://www.pharmatrain.eu/pharmatrain-syllabus>
- 12) 臨床研究法について . 厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html>